

スライム遊び

伊達市立堰本幼稚園（福島県伊達市）

[5歳児]

事例 “いろいろな物で試してみたよ”～「これでやってみよう」「あれはどうかかな・・・？」～（2年保育5歳児 スライム遊び）（T=保育者）

<経過> 昨年は、あえて透明なまま作り始め、透明でも分量の違いによって固さや手にした時の感触が違ふことを楽しんでいたが、今年は始めから朝顔による色付けができる環境にする。昨年（4歳児の時）経験している5歳児は、朝顔が咲いたのを見て「また、やりたい」という姿が現れた。「4歳児とのかかわり」をもつ機会の設定のため、始めは5歳児だけで取り組めるようにし、4歳児と一緒にやりたいと言うことで取り組み始めるようにする。

<保育者の願い>

今年は、朝顔だけでなくいろいろな花でも挑戦して欲しい。

自分から、進んでやりたいものを見つけ、いろいろなもので試して欲しい。



場面1 スライム先生登場

2年目の子どもたちだったので、しっかりと作り方の手順やスライム遊びの約束を保育者と確認して作り始める。保育者が「先生一人で教えるの大変だから、スライム先生になってくれないかな」と誘うと、「うん。なる！」と言い、スライム先生になる。（保育者は側で見守る）「スライム先生、教えて」「いいよ。待ってて」とやりとりをし、友達に教える。

【スライムの作り方】

- 1 水、のりをそれぞれフィルムケース1杯分ずつカップに入れ混ぜ合わせる。
- 2 よくかき混ぜたら、フィルムケース1杯分の魔法の水(ホウ砂)を「1」に混ぜる。
- 3 よくかき混ぜて、完成。

子どもたちは一気に混ぜる。「ベタベタ」「ベトベト」

C児：「ねーねー、あれ取ってこよー」

A児：「でかいミント混ぜると危ないよ」

T：「どうして？」

A児：「でかいとまぜられなくなるからだめだよ」・・・4歳児に伝える。

B児：オシロイバナを入れて「きいろになってきたよ」

C児：「ハートの葉っぱ(朝顔)でやりたい！」・・・しばらくかき混ぜるが「でなーい」・・・根気強くかき混ぜて少しずつ緑色に。



場面2 保育者が新しい物で色水を作って見せて刺激を与えてみる。（ヨウシュヤマゴボウ）

・園の花壇からヨウシュヤマゴボウの実を採ってくる。

・ナイロン袋に入れて、つぶす。

・種を除くために、漉してみる。

T：「うわー、きれー」との声に、みんな見る。

D児が挑戦する。そして、色水と、スライムの色の違いに気付く。

「不思議だね」「どうしてだろう？」

同じように挑戦する。やっぱり同じ結果。

D児：「はじめ、赤色なのに、・・・紫になった」「色が変わったよ」

<翌日、さらに変化が！>

D児：「せんせー！みてー。色が変わったー」

T：「どれー、見せて。うわー、薄くなったねー」

E児：「私のも」

D児：「みんな、ピンクになったねー」

T：「どうしてだろーね」

C児：「どうしてだろ？」「わかんない」



お迎えに来た保護者が「これは何をいれたんですか？」「えーっ！」と子どものように驚いてくれる。

様々な変化を体験したことで、「これからどうなるかな？」「あれは？」などと、次々に興味をもって取り組むようになった。



さらに、いろいろな物に目を向かせるための“場”（環境）をスライムの変化をみんなに知らせ、やってみたい物をいつもの＜なんだろうな探検隊＞のコースにはどんな物があるのか気付かせるよう探検隊になって出かける。

- ・ めあてをもってなんだろうな探検隊が出発し、様々な物を拾ってくる。



<スライムに混ぜてみたいと思って拾ってきたもの>

- ・ サツマイモの葉っぱ
- ・ イチョウ
- ・ マツバギク
- ・ 桜の葉
- ・ エノコログサ
- ・ プラタナスの葉
- ・ シソ
- etc...

場面3 シソで挑戦

「昨日拾ってきた物でやってみようよ！」との声かけで始まる。

- T
- ・ すり鉢とすりこぎ棒でシソの色水作りが始まる。
 - ・ いつものように作ってみると、緑に近い色に??

F児とJ児と一緒に作る。

二人で、良いシソを選び、すり鉢に入れくりくりとまわす。

J児は自分で考え、ままごと道具の泡たて器を持ってきて料理するかのよう試してみる。

「紫色」「きれいな色」「先生のよりきれいな紫色」

シソをぎゅっとしぼって「できた」

そして、そこに のり、魔法の水を入れる。

シソの葉の色を出すために道具使いにも工夫する姿が見られるようになってきた。



紫のスライムが!!

「匂いするよ」「ちっちゃい梅干しの匂い!」「なんで先生のは緑色で、SくんとKくんのは紫色なんだろうね?」...かすが残っていたので見せる。「ちょっと、先生のは緑っぽい」

場面4 給食にブドウが出た。「このブドウでスライムやってみよう!」

みんなのブドウの皮を袋に集めた。翌日挑戦する。

K児がまずやってみる。すると、なんと・・・紫色の色水が緑色に?

「わー、なんでーなんでー?」「色かわったー」

L児:「私もやってみよう!」

B児:「Uちゃん、本当にブドウの皮だけ?」

今度はL児が作ってみる。・・・結果は?

L児:「Uちゃんと同じだ。」「エメラルドグリーン!」「メロン色」

その後、他の子どもたちも作ってみる。

子どもなりに見比べてブドウの色の変化にとても驚いていた。

“色が変わるものって 他にもあるかな?”



場面5 さらに興味をもって取り組み、子どもたちはいろいろ発見する

<ストレプトカーパス>

- ・ 花の色水: 紫色
- + のり
- ・ 紫色
- + 魔法の水
- ・ エメラルドグリーン

<アサガオ+ブドウ>

- ・ 赤紫
- ・ 紫色

<ハスの花びら>

- ・ 透明だった色水
- + 魔法の水
- ・ 黄色のスライム



いろいろな濃さの緑色や紫色のスライムを目にして
K児が 「ぜんぶ、夏色だねー!」と感激。

みどころ

4歳時の経験を考慮して、5歳時の保育が工夫されています。環境の工夫がされていることで、子どもたちが自分たちの発想で環境にかかわり、遊びを意欲的に楽しんでいます。そうした取り組みの中で、疑問や目的をもって探求する姿が引き出され、科学する心が育まれています。